

横須賀港の紹介

—環境と共生する湾口物流拠点をめざして—

PORT OF YOKOSUKA



国際海の手文化都市

横須賀市港湾部

横須賀港 の 位置

横須賀港は、三浦半島の東側、東京湾の入口に位置し、北は横浜市との境の夏島町から南は野比海岸までの、水域（港湾区域）約5,530ha、陸域約346ha（港湾計画面積、うち臨港地区は約258ha）、海岸線延長約61kmの港湾です。横須賀港は、追浜、長浦、本港、新港、平成、浦賀、久里浜など13の地区から成り立っており、これらを総称して横須賀港と呼び、横須賀市が管理しています。



横須賀港マスコットキャラクター
横須賀港のマスコットとして、平成16年度に制定されました。愛称は「かもめ〜」



横須賀港 の 役割

暮らしを支える港湾

横須賀港は、自動車製造、造船、火力発電所を擁する産業の拠点、自動車輸出や国内物流の拠点、房総半島や伊豆大島、九州大分とを結ぶ旅客輸送の拠点として、人々の暮らしを支えています。

人々の憩う港湾

人々が海とふれあえるウォーターフロント…豊かな自然と調和した「うみかぜの路」（海と緑の10,000mプロムナード）を擁する横須賀港の海岸線には、海辺の憩いのスポットがたくさん点在しています。

安全を守る港湾

横須賀港は、大地震の際、被災直後の緊急物資や、被災者の海上輸送を確保するための耐震強化岸壁を、平成地区や久里浜地区に備えており、今後は長浦地区にも整備を予定しています。また、台風や高潮から住民を守る護岸の整備を進めています。

追浜地区



日産自動車の専用埠頭がある自動車の生産及び輸送の拠点です。

本港・長浦地区



横須賀造船所の地、海上自衛隊、米軍基地が利用している地。長浦地区では米、粉粒、砂などを扱っています。

新港地区



中心市街地に隣接する横須賀港唯一の環境を持つ商港です。

平成地区



「海辺の複合リゾート都市」を目標に、観光・住・遊の機能を融合したまちづくりを進めています。



猿島

東京湾唯一の自然島。島全体が自然公園として整備されます。



馬場海岸高潮対策

生態系に考慮した防波護岸です。



観音崎遊歩道

「うみかぜの路」の終点。浦賀水道を行き交う世界の船や房総半島が見わたせます。



小川三春線沿道緑地

「よこすか海岸通り」に沿った幅10mの遊歩道にはモニュメントをはじめ、色々な噴水、素敵な視察などが備えられています。



浦賀地区



江戸時代から栄えた歴史ある港。現在周辺地域を含めた再整備計画を進めています。



ウェルニー公園

横須賀本港を囲むたせる公園。「うみかぜの路」の起点です。



うみかぜ公園

海辺ニュータウン内の広大な緑地です。内形花壇を中心にスポーツ広場、観水噴井などがあります。



久里浜地区

東京湾の入口にあり、首都圏の内貿ユニットロード拠点を目指します。

横須賀港 の 歴史

横須賀港は、慶応元年（1865）に、徳川幕府の勘定奉行の小栗上野介忠順（おぐりこうぜけのすけただまさ）とフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが、横須賀村に製鉄所（後に造船所）を建設したことを起源としています。

明治17年（1884）に、横須賀鎮守府（ちんじゅふ）が設置されて以来、軍港として発展してきましたが、終戦後、昭和25年（1950）の旧軍港市転換法の施行により横須賀市が「平和産業港湾都市」として新たな歩みを始めたのに合わせ、港は旧軍施設を転用した緊急食糧輸入港などに生まれ変わりました。

昭和23年（1948）に貿易港としての指定を受けたのち、昭和26年（1951）には、港湾法により、準特定重要港湾（国内産業開発上特に重要な港湾）に指定され、ついで、同28年（1953）には、横須賀市が港湾管理者となりました。こうした中、臨海部に自動車、造船などの産業が立地し、輸送機械の輸出を中心とする物流拠点として、また、房総半島と結ぶフェリー基地として重要な役割を果たしてきました。さらに平成16年（2004）には、九州大分港と結ぶフェリー航路が開設され、東京湾口部に位置する優位性を活かした、首都圏の内貿ユニットロード拠点の形成を目指しています。

横須賀港の歴史年表

■横須賀港関連

- 1853（嘉永6）ペリーが浦賀に來航、後久里浜に上陸
- 1865（慶応1）横須賀製鉄所設立
- 1884（明治17）東海鎮守府が横浜から移転、横須賀鎮守府となる
- 1903（明治36）横須賀海軍造船所が横須賀海軍工廠となる
- 1907（明治40）横須賀市施行
- 1915（大正4）横須賀港開港50周年
- 1925（大正14）安浦港竣功
- 1937（昭和12）港湾計画策定
- 1941（昭和16）横須賀軍港の副港として久里浜港工事着手
- 1945（昭和20）終戦・港湾施設が接収される
- 1946（昭和21）長浦地区の接収施設の一部が返還され、緊急食糧受入港となる
- 1948（昭和23）横須賀港が貿易港としての指定を受ける
- 1951（昭和26）横須賀港が準特定重要港湾の指定を受ける
- 1953（昭和28）横須賀市が港湾管理者となる
（長浦・久里浜に港湾事務所設置）
- 1965（昭和40）横須賀港開港100周年 久里浜ふ頭竣功
- 1974（昭和49）新港ふ頭竣功
米ロサンゼルス港、ロングビーチ港と姉妹提携
- 1982（昭和57）港湾計画改訂
- 1991（平成3）海辺つり公園完成
- 1992（平成4）平成地区埋立竣功
- 1993（平成5）港湾計画改訂
うみかぜ公園完成
臨海道路小川三春線開通
- 1998（平成10）久里浜一工区竣功
- 1999（平成11）浦賀・鶴居地区竣功
- 2001（平成13）久里浜地区二工区竣功
- 2002（平成14）久里浜一大島航路開設
- 2003（平成15）ペリー來航150周年 横須賀港港湾管理者50周年
「帆船フェスタよこすか」開催
- 2004（平成16）久里浜-大分航路就航
- 2005（平成17）港湾計画改訂、港湾環境計画策定



水師提督ペリー乗組のミシシッピ号



海軍工廠造船台



浦賀港と浦賀ドック



建設中の横須賀新港



建設中の高層ニュータウン

■社会の動き

- (1868) 明治維新
- (1905) 日露戦争終戦
- (1918) 第一次世界大戦終戦
- (1929) 世界恐慌
- (1937) 日中戦争始まる
- (1945) 第二次世界大戦終戦
- (1950) 朝鮮戦争始まる
- (1951) 日米安全保障条約調印
- (1957) 世界初人工衛星打ち上げ成功
- (1964) 東海道新幹線開業
東京オリンピック開催
- (1969) 東名高速道路開通
- (1970) 大阪万博開幕
- (1973) 第一次オイルショック
- (1978) 新東京国際空港（成田）開港
- (1979) 第二次オイルショック
- (1982) 東北・上越新幹線開業
- (1991) 湾岸戦争勃発
- (1995) 阪神・淡路大震災
- (1998) 長野オリンピック開催
- (2001) アメリカ同時多発テロ
- (2002) 日韓共催ワールドカップ開催
- (2003) イラク戦争勃発
- (2005) 愛・地球博開幕

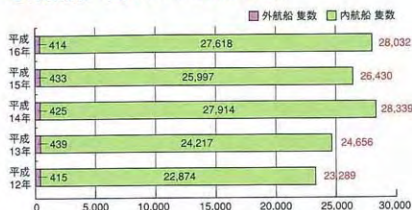
横須賀港 の 港勢

横須賀港で取り扱われる貨物は、自動車（完成品及び部品）とフェリー貨物が大部分を占め、その他に砂利・砂、土地造成による廃土砂や、

発電所の燃料に用いる重油などがあります。水産品としては、冷凍マグロの取扱いがあげられ、県内1の水揚げ量となっています。

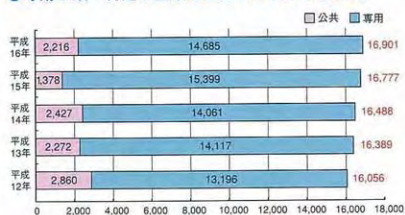
外航・内航引込船舶隻数の推移（単位：隻）

- 外航船舶：外国の港から入港した船
- 内航船舶：国内の港から入港した船



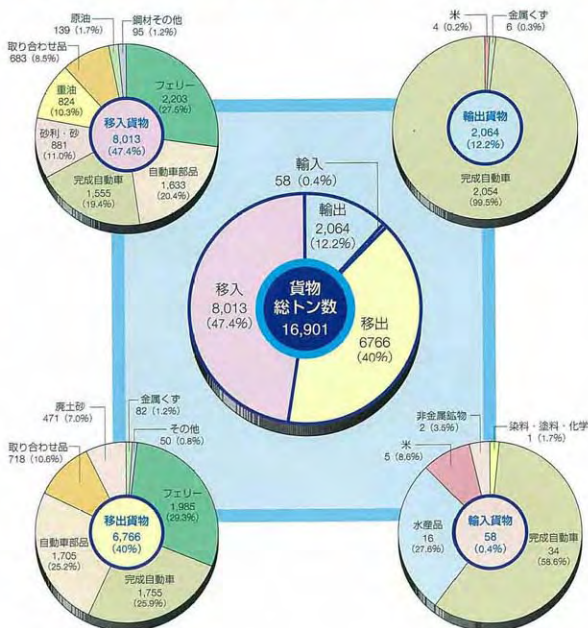
公共ふ頭・専用ふ頭別海上出入貨物量の推移（単位：千トン）

- 公共ふ頭：誰もが利用できるふ頭
- 専用ふ頭：特定の企業などが利用するふ頭



取扱貨物の構成〈平成16年〉（単位：千トン）

- 輸出（輸入）貨物：外国との貿易の貨物
- 移出（移入）貨物：国内を輸送される貨物



地区別取扱貨物量〈平成16年〉（単位：千トン）



横須賀港シンボルマーク

平成16年度に制定された横須賀港のシンボルマーク。
海と陸域をまたいだ港湾活動を表す大空を滑走する「かもめ」と「横須賀」のYをイメージし、世界に羽ばたく横須賀港のイメージを含めデザインしました。

横須賀港 の 定期航路

浦賀水道航路は、世界でも有数の船舶の行き来で混雑する海域です。このため航行する船は12ノット（時速約22キロ）以内という速度規制を受けており、船が東京湾の入口から湾奥に行くまで約3時間かかってしまいます。しかし、浦賀水道航路を通らずに済む久里浜や浦賀地区で陸上

交通に切り替えれば、約1時間10分で首都圏まで行くことができます。横須賀港はこのメリットを活かした首都圏における内貿ユニットロードの拠点や、海を利用した人々の交流の拠点づくりを目指しており、現在久里浜などから4つの定期航路が就航しています。



久里浜—金谷 東京湾フェリー

久里浜と千葉県金谷間11.5kmを35分で結ぶフェリーです。
使用船舶：かなや丸、しらは丸、くりは丸
乗客定員：580人 乗用車：110台 バス：16台
トラック：36台

問合せ先：東京湾フェリー（株）久里浜支店
046-835-8855（代表）
<http://www.tokyowanferry.com>



久里浜—大分 シャトル・ハイウェイライン

大型高速フェリーで、久里浜と大分大在ふ頭を約21.5時間で結びます。
平成16年4月に就航し、首都圏—九州圏間物流の一翼を担っています。
使用船舶：しゃとるよこすか、しゃとるおおい
乗客定員：285人、乗用車：105台
トラック(12mトラック)：100台
問合せ先：シャトル・ハイウェイライン（株）
0120-626-676（船客予約センター）
046-837-8412（貨物予約センター）
<http://www.shline.co.jp>



久里浜—伊豆大島 東海汽船(季節運航)

超高速ジェット船で、久里浜と伊豆大島元町を60分で結びます。
伊豆大島の椿まつりの時期を中心に、春・秋・冬季に運航しています。
1日1便。乗客定員：260人
使用船舶：セブンアイランド「夢」、「愛」、「虹」
問合せ先：東海汽船（株）予約センター
03-5472-9999
<http://www.tokakisen.co.jp>



追浜—御前崎—苅田（北九州）—大分 九州急行フェリー

日産自動車の専用ふ頭が整備されている追浜地区と静岡、北九州、大分を結ぶ貨物専用フェリーです。トレーラーを約600台運用しています。
使用船舶：みやこ丸、むさし丸
問合せ先：九州急行フェリー（株）営業部
03-3537-8321
<http://www.kyukyuu.co.jp>

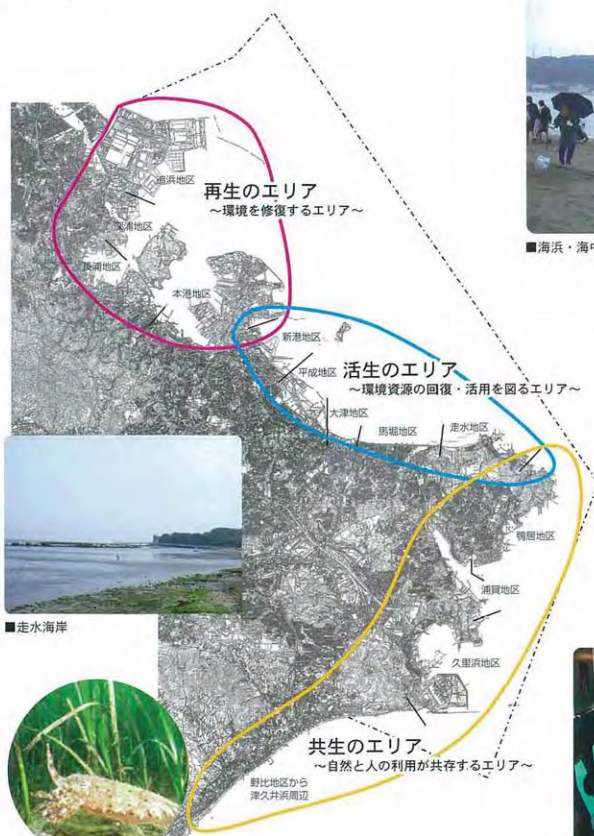
環境
と
共生する
横須賀港

横須賀港内には、観音崎や猿島、走水海岸など、東京湾西岸では貴重となった自然海岸や緑地があります。このことは、東京湾内の他の港湾と比べ横須賀港の大きな特徴・財産

です。横須賀港は、産業物流の場としての港湾と、自然豊かな環境に配慮した人々の憩いの場としての港湾の両立を目指します。

横須賀港港湾環境計画

港湾計画改訂に合わせ、平成17年3月に策定しました。横須賀港のもつ自然、文化、歴史を活かし、環境と調和したみなとづくり、まちづくりを行うため、「市民との協働によるエコタウンポートの形成」を基本理念に、横須賀港の海の再生・活生・共生に取り組んでいきます。



■走水海岸

海のゆりかごアマト

エコポートよこすか事業

横須賀港の海の問題や、自然との共生について、海浜・海中清掃やビーチコーミング、海中観察会、などを通して、市民と共に楽しみながら海の問題への理解を深めていこうとする取組みを実施しています。



■海浜・海中清掃（久里浜）



■ビーチコーミング（猿島）



■水中観光船による海中観察会（浦賀・観音崎）

このパンフレットをご覧になるうえで、知りたい用語を選びました。少し専門的ですが、参考にしてください。

- 重要港湾** 国の利害に重要な関係を有する港湾。全国には1,079の港湾があり、そのうち横須賀港を含む128港湾が重要港湾です。
- 港湾管理者** 港湾法に基づき、港湾全体の利用開発、保全、管理にあたる地方公共団体のこと。横須賀港の港湾管理者は横須賀市です。
- 港湾区域** 港湾管理者が港湾法により、管理する水域をいいます。横須賀港の港湾区域は約5,530haで、全国で26番目の広さです。
- 臨港地区** 港湾の管理運営を円滑に行うため、都市計画法及び港湾法で定められた地区。港湾区域と一体となって機能をいいます。
- 港湾計画** 港湾法に基づく計画で、港湾の開発・整備及び管理・運営・保全のため、港湾管理者が定める基本的な計画。現在の横須賀港の港湾計画は、平成17年3月に改訂されたもので、平成20年代後半のあるべき姿を表しています。
- エコポート** 「環境と共生する港湾」を意味し、今後の港湾環境政策の基本的な考え方として、平成6年3月に国土交通省（当時運輸省）が提唱しました。横須賀市はこの考えと、市の環境行政のマスタープランである「横須賀市環境基本計画」に基づき、「横須賀港港湾環境計画」を策定し「エコポートよこすか事業」を実施しています。
- ユニットロード** 船舶で輸送する貨物をコンテナやパレットなどの容器に収納し、フェリー等により効率的に海上輸送すること。横須賀港ではシャトル・ハイウェイライン、九州急行フェリーが行っており、モーダルシフトや複合一貫輸送に多く見られる輸送方式です。
- モーダルシフト** 輸送の方式（モード）を転換すること。貨物を陸上トラック輸送から、鉄道や船舶といった大量一括型の輸送機関に切替えることにより、環境や労働力不足などの問題に対応しているという物流政策です。
- 複合一貫輸送** 特定の貨物を2つ以上の輸送手段により運送すること。例えば、首都圏と九州、北海道などの長距離輸送の場合は、中間の長距離部分は鉄道や海上輸送を行い、両端の集荷配送はトラックで行うといった方法がとられます。

知っているると便利な港湾関連用語

- ノット** 船の速度に使われる単位。
1ノットは時速1.852 km。＝時速1マイル（海里）
- マイル** 海上の距離を表す単位で、1マイル（海里）は1,852m。
地球の経度の1分（1度の60分の1）にあたる。
陸上のマイル（1マイル＝1,609m）とは異なる。
- ドラフト** 船体の水圏下に沈んでいる深さを表す言葉。
（喫水）
- 岸壁** 船舶が推岸するため、水際線にはほぼ垂直な壁を備えた構造物。
水深が-4.5m以上のものをいひ、それ以下のものは物揚場という。
- 棧橋** 船舶を接岸係留させる施設で、目的は岸壁と同様であるが、その構造は、橋のように水圏に杭等の支柱を建て、その上に梁と桁を渡し、これに床を張ったものという。
- ボンツーン** 浮き桟橋、ヨットなど小型船の係留に用いる。
- ドルフィン** 海域に独立して設けられた柱状構造物などで、陸岸から離れたところ（係船柱）に設置して船舶をつなぐ係留施設をいう。
- ピット** 船が岸壁に着岸するときに、ロープを巻きつけるフックのことをいう。
（係船柱）
- プレジャーボート** スポーツ又はレクリエーションに利用されるヨット、モーターボート等の船舶。
- マリナー** プレジャーボートの係留、保管、燃料補給、修理などのサービスが受けられる施設。
- ポートパーク** 主に小型のモーターボートやヨットを対象にした、必要最小限の施設や機能を備えた簡易な係留・保管施設。

横須賀が好き!



2007 市制100周年

横須賀市港湾部
港湾企画課

〒238-8550 横須賀市小川町11番地
電話：046 (822) 8438 FAX：046 (826) 3210
URL：http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/minato
MAIL：pp-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp